

農経新聞

株式会社 農経新聞社
 東京都品川区西五反田
 1-27-6 市原ビル9F
 (郵便番号 141-0031)
 電話 東京 (03)3491-0360
 FAX (03)3491-0526
 ホームページ
<http://www.nokei.jp>
 郵便振替 00180-8-156982

イチ(帯広市)は、イトヨーカ堂と資本・業務提携を發表した。

イトヨーカ堂がタイイチの30%の株式を取得して同社の筆頭株主となり、共同仕入れや道内の効率的な物流体制の構築を進める。

道内の「イトヨーカド」12店で販売するPBブランドをタイイチの店舗で販売することも検討し、道

内における両社の売上高を、2年後をメドに現在より約300億円増の1千億円にしたいとしている。

大手の傘下に入れば、PB商品の供給や仕入れにおいて優位性がある。しかし、大手が狙うスーパーは、店舗数が50店舗以上で、県内でトップクラスに限られる。今後の再編でさらに2極分化が進みそうだ。

67品種が一堂に

大阪本場で見本市

青果育種研

種苗会社と卸売会社からなる青果育種研究会(会長 宮本修・東京青果専務、正会員7社)はこのほど大阪市中央卸売市場本場で「第143回品種見本市」を開催し、市場業者や生産者、JA関係者など170人が来場した。種苗会社19

社が合計67品種を披露すると

も、近隣産地のJA大阪泉州による「なにわの伝統野菜」の紹介コーナー、ミツカンによる展示やピクルスの試食なども行われた。

今回は、会場中央にスイカ、メロン、トウモロコシの全品種を集め、作付けの参考にと、種苗会社の担当者がコーナーを設け、から熱心に話しを聞く参加者も



置。とくにトウモロコシでは、「ジュアホワイト」(雪印種苗)、「ホワイトシヨコラ」(みかど協和)、「雪の妖精」(トホク)といった白粒種が3品種出品され、注目を集めた。また、関西にはスイカ、メロンの育種会社が多く、京都からはタキイ種苗、丸種、タカヤマシード、奈良からは萩原農場、大和農園、ナント種苗がそれぞれ推奨品種を出品した。

約2割、スイカでは果肉が黄褐色の「サマークリーム」(ナント種苗)が4割、メロンでは赤肉の「TR-38」(タカヤマシード)が3割を獲得してそれぞれ1位となった。

また、武蔵野種苗園では中国野菜の品種、トキタ種苗ではイタリヤ野菜、バイオニアエコサイエンスでは10品種以上のトマトを紹介するなど、個性を打ち出す出展も見られた。